

<p>保育目標</p>	<p>心身ともに健やかで、生き生きとした子ども</p> <p>① やりたいことを見つけ、自ら考え行動する子ども</p> <p>② 豊かな感性を持つ子ども</p> <p>③ 自分を好きになれる子ども</p> <p>④ 人の気持ちがわかる子ども</p>
--------------------	--

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
<p>学びの場である保育の充実</p>	<p>「愛情」を基盤とした自尊感情の構築</p>	<p>・今までは保育者間での振り返りや保護者との会話や連絡ノートのやりとりなどで保護者からの意見を知り、満足度を図っていたが、今年度より、行事の後に簡単な保護者アンケートをとり、「子ども達の関わりや寄り添った保育ができているか」の項目を加え、保護者が具体的に感じていることを記入してもらい、保育の質の向上を目指す。</p>	<p>・日々の会話や行事の後の保護者アンケート等のコメントから保護者の思いや考えを知ることができた。思いや考えを受け止め、今後の保育に反映させることが出来るよう職員一同努めていく。</p> <p>・子どもの姿から気持ちを読み取り、共感を深めるよう努め、毎月のおたよりやホームページ、クラスルームでの動画配信等で保護者に知らせるようにしてきた。</p> <p>・常勤の職員間では、自己評価を意識して共通理解に努めてきたが、朝タパート職員に周知できていなかった為、温度差なく子どもに寄り添えない場面があった。</p>
	<p>資質・能力を育む保育の推進</p>	<p>・子どもの姿を職員で読み取り、環境構成や次への遊びの展開が豊かになるよう努めている。また、研修で学んだことを実践で活かし、保育者同士で気づき合う機会を設け、保育の質の向上を目指している。</p>	<p>・子どもが主体的に活動できる環境や関わり方など、研修や他園に行き学んだこと実践するよう努めてきた。子どもの姿に応じて、少しずつではあるが子ども達の興味や関心をより深く幅広いものにし“やりたい”と思えるような環境の再構成を引き続き取り組んでいきたい。また、職員自身がその環境の中で楽しむことの難しさや遊びの継続性の難しさを感じている。職員間でより一層対話を深め共感し合い、子どもの環境へ返していけるようにしていきたい。</p> <p>・疑問に思ったことは声に出しお互いを高め合う関係を構築し、資質・能力を育む保育の推進に努める。</p>
	<p>ちがいを認め合える仲間づくり</p>	<p>・会議や研修で学んだことを全職員が共有できるよう職員が目につく所に内容を掲示したり回覧し、いつでも見ることができる仕組みの構築をしたり、日ごろから子どもの良いところを見つけ、その姿を全職員で共有できるよう努める。</p>	<p>・子どもの姿の読み取りを通しクラスの職員で子どもについて語る機会を持っている。会計年度職員も含め日勤の保育者は語る機会も増えたが、朝タパートや調理士・用務等語る機会を設けるべきであった。</p> <p>・まだまだ、全職員に共有できていない部分が多かった為、回覧や掲示の仕方を一目で見てわかりやすいように工夫していくべきであった。</p> <p>・年齢だけではなく個々の性格や成長に合わせて保育に取り組んでいるが、職員だけでなく子ども同士が違いを認め合える環境づくりについて深めていく必要がある。</p>
<p>保育者の資質向上</p>	<p>職員研修・園内研修の充実</p>	<p>・職員研修で学んだことを保育の実践で活かし、その後、環境構成や子どもへの関わり方を変えたことで、子どもの姿がどう変化したか、主体的な活動へつながったかなど子どもへの理解を職員間で深めていく。</p> <p>・職員間で子どもの姿を定期的に読み取り、保育の質の向上に努める。</p> <p>・他園の保育環境や子どもへの関わりを見学し、良い所を自園でも取り入れ遊びを充実させていく。</p>	<p>・正職・会計年度職員関係なく、他園を見学に行ったことで園の目標に向かい、同じ気持ちや方向を向いて環境づくりや関わり方ができてよかった。</p> <p>・他園の環境や園内研修で学んだことを自園でも生かせる部分は取り入れつつあったが、子どもの姿に応じて構成できたかと振り返ると十分でなかった。</p> <p>・園内研修では、客観的に保育を見る機会になり、子どもへの関わり方や言葉がけ等の振り返りができた。</p> <p>・随時研修には参加しているが、全職員で共有しづらい部分もある為、会議等での研修報告や回覧だけでなくアウトプットできる場を設けていきたい。</p>
	<p>チーム保育の推進</p>	<p>・子どもの姿や保育内容、保護者情報を保育者間で共有し、会議や研修、回覧などの報告ができるように努めていく。</p> <p>・保育所で起こった怪我やヒヤリハットなどを毎朝、全職員が回覧する機会を設け共有し、安全で安心な保育所運営に努める。</p>	<p>・異年齢がワンフロアで過ごしてしているにも関わらず、年齢を超えての声掛けや連携が不十分であった。その為、職員間のコミュニケーションが今まで以上にとれると、より子ども達の遊びや関わりが充実できると思われる。一人一人が思ったことを言い合える関係性を職員間で構築し保育の資質の向上に引き続き努めていきたい。</p> <p>・職員間の壁をどう取り払っていくかが課題であり、何が壁になっているのかを話し合い、子どもの姿、環境、遊び等の共有をし、安全・安心な保育所運営に努めていく。</p>
	<p>小学校教育との接続</p>	<p>・小学校の「運動会の練習」「音楽会の練習」「休み時間の様子」など折を見て見学させてもらい、自園での園内研修を行う際には、近隣の小学校の職員を招待し、子ども達の姿を見てもらうなど、子どものみならず職員の交流の機会を設けていく。</p>	<p>・小学校の運動会の練習、運動場での秋探し、校内探索、秋祭りの参加等、散歩で学校に遊びに行かせてもらう以上に色々なイベントに参加させてもらうことで子ども達の小学校入学への期待も高まった。また、保育所の園内研修に学校の先生に参加してもらうことで保育所の保育内容に深く興味を持ってもらうことが出来た。</p>